

港区教育委員会教育長賞

白金長者の森から学ぶ

高輪台小学校 米田 想

私は、四年生の時、国立博物館附属の自然教育園に春・夏・秋・冬と観察に行きました。

この自然教育園には大きな森があり、古くは白金長者がこの地に住んでいたとか、江戸時代には大名の屋敷があり、大きな庭があったと言われている場所です。

今では、コナラやケヤキなどの落葉樹やスダジイ・マツなどの常緑樹におおわれ、ススキやヨシの草原や池などがあります。都会のオアシスとも言われるような場所になっています。

この自然教育園に春夏秋冬と四つの季節に行って気付いたことが二つあります。

一、木に囲まれると、心地よいということ。こい緑・黄色に近い緑といろいろな緑の色が心をおだやかに思えます。又、いろいろな香りがします。行くとびにちがうにおい・香りがします。そんな香りにつつまれてみると、深呼吸したくなるような気持ちがあります。多くの花や実があり、森は季節によって表情を変えることを知りました。

二、森には、たくさん鳥や虫がいるということ。です。

鳥の声やよく見かけるカラスもいます。ウグイスの声もします。それに、聞いたことのない声も聞こえてきます。どんな鳥なのか見てみたいという心が高まります。いろいろな虫もいます。森は樹の生活だけでなく様々な虫・鳥などの生活の支えになっているのだなあと思っています。

このように私たちの生活に元気を与えていてくれる森や木、さらにはたくさん虫や鳥など動物の生活を支えている森や木はこれからも、なくてはならないかけがえのないものであり、大切にしなければなりません。

そのために、私は次の提案をします。第一は、仲良くすることです。それは木の名前を知ることです。あわせて木というよりも、一つ一つの生き物の名があるからです。第二は守ってあげる、近づくといいことです。枝をむやみにおらないことであり、ゴミを捨てない、タバコなど小さいゴミでもきちんとゴミ箱に捨てる意識を持つべきだということ。です。

私たちのできることから少しずつ始めていきたいです。